

### 1. 教育の責任

核家族化が進み地域社会が「個」として分断されている時代に育った学生は、高齢者の生活や価値観を感覚的に理解することが難しくなっている。そういった背景の中で異なる時代を生き抜いてきた高齢者が自らの心身の状況や老いをどうとらえ、どのように折り合いをつけながら生きていっているのかを時代・教育・文化的背景と個々の歴史・価値観を捉え理解し、多様な高齢者が終末期を豊かに過ごすことを支えるケアとは何かを思考し、展開できることを目指す。またますます高齢化が進む中で、卒業後も臨床現場や地域社会において高齢者看護やそれを支えるシステムを創造していける人材を育むという一翼を担っている。

### 2. 教育の理念

国際看護学部のディプロマポリシーである「国際化する社会に暮らす人々に寄り添い、多様な人々の営みを理解、受容し、個人の価値観、信念、宗教観、生き方を尊重することができる」を踏まえ、自分とは異なる時代背景を生きた高齢者の生活・文化を尊重し、寄り添い、高齢者一人ひとりの豊かな生を支える看護を創造する能力を養う。

### 3. 教育の方法

#### <教育の目標・工夫>

高齢者看護学概論、多様性と高齢者で押さえた日本における高齢者の現状・加齢による心身の変化や高齢者疑似体験演習での体験的学び内容を踏まえ、主に担当する「高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ」においては、高齢者の生きてきた時代や価値観を祖父母へのライフストーリー聞き取りとその読み解きをし、個々の中にある時代背景の影響・価値観・健康観を知ることを通して全体的理解とはどういうことかの土台作りをしていく。さらに、高齢者の看護について高齢者によくみられる疾患や症状を事例を用いながら分かりやすく具体的に伝え、ディスカッションや質問応答形式を取り入れながら主体的に知識を得るための工夫をしていく。また高齢者看護では必ず出会う食事介助・嚥下訓練・排泄ケアのマルチタスク演習を通して観察・アセスメント・実践の基礎の体得を目指す。学生自身が「感覚的にわかる」とこと演習の中での疑問点とその解決方法について理解し実習に繋がられるようにする。看護過程の演習では事例を用い生活者としての高齢者を理解できるように作成した枠組で情報を整理し対象者の総合的理解をどのように行っていくのか、対象者の看護の方向性をどう考えていくのかについて学生自身が思考し、目標志向型の看護を学ぶ機会を設け支援する。

#### <学生との接し方>

将来医療現場に立つプロとして身につけておくべきマナーについて TPO をわきまえることができるように指導もしつつ、学生が安心して自分の意見を述べ、間違えることができるように意見を否定せず、意見を述べやすい雰囲気作り、関係性作りに努める。

高齢者看護学実習では学生 1 人が一人の高齢者を受持ち、老健施設あるいは療養病院で人生の一部を過ごし、生活を送る「生活者」と捉え、全体的な理解ができるよう支援していく。受持ち高齢者とのかわりのなかから情報収集・アセスメント・看護計画立案・実施・修正の体験を通して実際に対象高齢者の生活をふまえた目標志向型の看護を感覚的に体得することを支援する。日々のカンファレンス・指導者と学生間の調整・記録による現象の理解の支援を通し、最終的に高齢者看護を創造していく能力の基礎を培えるよう支援していく。

### 4. 教育の成果

高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱの講義では講義に対する感想をエルキャンパスから提出してもらっている。学生からは事例を用いた講義や具

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：田中 春菜 作成日：2024年1月5日

体的な疾患の説明・視覚的にわかりやすくイメージしやすい図表や動画をもちいた講義について「〇〇がわかりやすかった」「〇〇について良くわかった」「実習で知識を役立てたい」等という感想が多かった。また認知症高齢者の世界が理解できるよう、当事者や家族の思いがわかる動画の視聴をもらった。それは認知症本人の辛さや家族の苦しさに触れ、疾患ではなく「人」としてみる土台作りに繋がったようである。演習では実際に臨地で必要になる技術について実施しその観察項目と技術のポイントについて学生が主体的に考えられるように工夫し、その後各教員がグループごとにファシリテートを行なったことで効果的な学びになっていた。次年度以降もまずは学生が主体的に考え、その後ポイントを一緒に押さえて知識と技術を効率的に吸収でき看護について考える能力を伸ばす支援を行っていく。

### 5. 改善への努力と今後の目標

#### \* 目標に対する自分の課題

- ①学生自身が感覚的に「わかる」ことを目指しているが、加齢による身体の変化と疾患の特徴について視覚的資料や主体的学習をもっと取り入れていく。
- ②看護学実習では学生の問題解決型思考を目標志向型思考に変換するのに1週間かかる。高齢者を生活者としてとらえるための実習記録の改善を行い、看護過程Ⅱでは生活者の背景が良くわかる事例の作成を行う。

#### \* 課題の解決方法と計画

実習記録の枠組を「いのち・身体・こころ・生活・かかわり」も5つから編成しライフヒストリーも組み込んで、今ある高齢者はこれまでの生活の連続であることを理解できるようにする。またその先に今後の高齢者の生活が続いていくことを考えて、現在のケアをどうすればよいかという思考になるように学生の中から看護を引き出し、ファシリテートしていく。

次年度

#### \* 今後の計画

1月中旬に次年度の各講義について内容を再検討しビジョンとすり合わせ学生が感覚的に「わかる」講義・演習、その延長としてさらにケアの意義まで落とし込めるように学生の特徴や能力を見極めながらファシリテートできるようにしていく。

### 【添付資料】

